但利家御女中』とあるも之に同じく、慶長十一年七月白山奉加帳にひがしの丸御うへさまとあるも亦同樣である。後に利家の側室壽福院を東ノ丸樣というたが、それと混じてはならぬ。

ヒガシノボウ　東之坊　鳳至郡南時國なる黑髮山に在つて、眞言宗に屬し、山王社の別當であつたが、今は存せぬ。能登名跡志に、『高田寺とて眞言宗あり。時國兩家の菩提所なり。東之坊とて同宗の小庵あり。』と記する。

ヒガシノマル　東ノ丸　金澤城本丸の東續きの地で、蓮池堀の高に當る所をいふ。但し表面は本丸の一部なるが故に、寶曆五年幕府の巡見上使への答書に、東丸の櫓・倉庫・門等は皆之を本丸の條に記載してある。

ヒガシノマルサマ　東ノ丸樣　前田利家の側室で後に壽福院といはれたものをいふ。金澤城東丸の館に居たからである。利家の正室芳春院も東御方とも東の丸御うへ樣ともいはれたが、それは壽福院が東丸樣といはれたよりも前のことであり、側室を御うへさまといふこともない。

ヒガシババ　東馬場　鹿島郡淺井庄に屬する部落。大永六年十月一宮社務職米錢納帳に東馬場の名が見える。鄕村名義抄に、東馬場は西馬場の出村であるとする。

ヒガシババジョウ　東馬場城　鹿島郡東馬場に在つて、天正七年山莊監物が居り、八年には長連龍が監物等を逐うて之を奪ひ、十二年には連龍の將鈴木因幡之に據つて神保氏張の軍を防いだ。長家家譜に窪田館が東馬場に在るとするから、東馬場堡卽ち窪田館のことであらう。

ヒガシババノタタカヒ　東馬場の戰　天正十二年朝日山戰爭の直後、越中富山の佐々成政は、神保安藝守氏張・土肥美作政重・狩野將監等を、鹿島郡荒山に出張せしめた。美作・將監は更に井田・小竹に進み、先鋒を德善河原に出し、氏張も自ら二宮に陣し、火を諸所に放たしめた。是に於いて德丸城の長連龍は、鈴木因幡を東馬場の窪田が館に至つて防戰せしめた爲、氏張は逆に退却を始めた。時に連龍は德丸を發したが、恰も小林平左衞門・長壹岐・三宅善丞・阿岸與市右衞門・鈴木源內等が、途を分かつて神保軍を追跡するに會し、共に進んで德善河原に至り、敵首數級を獲、捷を七尾の諸將に告げた。是を以て七尾の前田安勝・前田良繼・高畠定吉・中川光重等も亦荒山の將袋井隼人を攻めたが、壘堅くして拔くを得なかつた。この戰は諸書に記載せられぬが、長家家譜に傳へるから事實らしいやうであり、若しその事があつたとすれば末森役直前九月初頭であらう。尙一考を要する。

ヒガシバラワキバラ　東原脇原　河北郡五ケ庄に屬する部落。正保・貞享の高辻帳に兩原村とあるのは、村名の長きを避けたのである。更に略して原村といふこともある。

ヒガシフタクチ　東二口　能美郡白山下の二口を、明治に至つて東二口と改稱した。

ヒガシホンガンジツルギベツイン　東本願寺鶴來別院　→ホンガンジベツイン　本願寺別院(三)。

ヒガシホンガンジベツイン　東本願寺別院　→ホンガンジベツイン　本願寺別院(二)。

ヒガシミカイ　東三階　鹿島郡三階良川保には三階と稱する部落が二つあつたので、明治に至りその一つを東三階と改めた。

ヒガシヤスエモン　東安右衞門　石川郡平加村の人。文化九年生。石黑信由系の算學を好み、測量に長じたが、勉學の爲嘉永元年失明し、後佛門に歸した。明治十年三月享年六十六で歿。

ヒガシヤチ　東谷內　羽咋郡上棚の內の小字であるが、もとは上棚の本村であつたといふ。

ヒガシヤマ　東山　鳳至郡甲の內の小字。

ヒガシヤマ　東山　鳳至郡阿岸鄕に屬する部落。

ヒガシヤマナカ　東山中　珠洲郡木郎鄕の山中は、明治中に至り改めて東山中と稱した。

ヒガシヤママンク　東山萬句　二冊。支考著。上卷は芭蕉十三回忌の諸國の俳諧を集めたもので、金澤・小松・大聖寺連の附合もある。下卷は寶永三年三月洛東双林寺で追悼會を營んだ際の告文及び附合等であるが、諸國招待の內に『北枝回祿有斷』とあつて、この年二月北枝の罹災したことが知られる。

ヒガシユウラホ　東湯浦保　→ユウラホ　湯浦保。

ヒガシヨネミツ　東米光　石川郡長屋庄に屬する部落。

ヒガシヲムロ　東小室（ヒガシオモロ）　羽咋郡富來院に屬する小室は、明治に至り東小室と改稱した。

ヒカヘメン　扣免　藩政の時、例へば五つの村免なる田地を、寺社等に四つ免として寄進する如きを扣免といふた。この場合に、殘餘の免一つは藩の收納とする。

ヒカマ　火釜　能美郡山上鄕に屬する部落。

ヒカリウラ　光浦　鳳至郡大屋庄に屬する部落。今昔物語に、『今は昔能登國の奧に鬼の寢屋島といふ島あり。其浦に住む海人共は、その鬼の寢屋に渡てぞ鮑を取つて、國の司には辨じける。其國に光島といふ浦有り云々。其の光の浦より鬼の寢屋は、一日一夜走て人行なる。』とある光島又は光の浦は是であらう。能登名跡志には、『光浦といふは、昔時國の岩倉山の觀音、此の磯に夜々光を放ち、漁父の網に揚り給ふに依ていへり。又此村は石動山の智識米を出さず。』とあり、金砂子には、『此浦邊に得もいへぬ美しき小石あり。』と見える。こゝに小石といふのは、海底の礫岩が波浪の爲破壞磨礪せられたもので、それを五色石と言うてゐる。此の地は輪島の袖濱・鵜浦に對し、大尖り・小尖り等の奇岩が多い。

ヒカリジンジャ　光神社　鳳至郡光浦に鎭座する。舊名を火ノ宮といひ、軻遇突智命を祭神とする。

ヒガンエ　彼岸會　藩政の時、二月中春分を中心として前後七日間をいひ、各宗寺院が協同若しくは單獨に法要を催した。今も行はれる。

ヒガンショ　彼岸所　白山本宮に古へ彼岸所があつた。白山記に、『凡公家造替ノ屋々寶殿・拜殿・彼岸所』とあり、三宮古記には文保元年十月十一日彼岸所等十宇燒失し、白山宮莊嚴講中記錄にも延應元年八月十七日の火災に彼岸所の觀音を大講堂に移したとある。彼岸所は白山宮の社僧が彼岸會を行うた所である。

ヒキ　疋　錢十文を一疋といふ。その百